

西南女学院大と西日本工大がプロジェクト

京築ヒノキで商品開発

京築地方のヒノキを使って若い世代が好む家具などの商品開発プロジェクトに

取り組む西南女学院大(小倉北区)と西日本工大(刈田町)の学生約20人が26日、小倉北区の同工大地域連携センターで、本年度の活動方針を決める会議を開いた。西南女学院大が考えた商品コンセプトを、西日本工大生がデザインして、本年度末までに両大のブランド商品を開発、発表することを申し合わせた。

プロジェクトは知名度の高い京築ヒノキの利用促進を目的に、昨年度スタート。西南女学院大は福岡市や北九州市で、消費者が必要と

している木材製品などの市場調査を実施した。

この日の会議では、調査を踏まえ、西南女学院大文学部の高橋幸夫准教授のゼミ生が「オンナ・くすぐる・おいしさ∞」をテーマに、若い女性(25〜30歳)をターゲットにした木材品ギフトのデザインを西日本工大に依頼した。

これに対し同工大側は、来月28日までに、デザイン学部の石垣充准教授の研究室に所属する学生12人がそれぞれ1作をデザインし、両大で検討を重ねて製作する作品を絞り込むことにした。本年度末までに作品の発表機会を持ちたいとして

いる。

一方、西日本工大生からも独自で考えた写真立て、ドアノブなどの商品開発案の説明もあり、実現性を探った。
(佐伯浩之)